

仙台市文化財調査報告書第320集

# 下ノ内遺跡

—第8次発掘調査報告書—

2008年3月

仙台市教育委員会



## 序 文

日頃、仙台市の文化財保護行政に対しまして、ご理解、ご協力をいただき、担当する仙台市教育委員会にとりましては、誠に感謝にたえません。

下ノ内遺跡は、仙台市南部の太白区富沢四丁目に広がる遺跡です。この地域一帯は水田や畑が広がる田園地帯でしたが、仙台市高速鉄道南北線の開通によって、急速に開発が進行し、現在「富沢駅周辺土地区画整理事業」によって都市化が進んでいるところであります。こうした動きの中で、下ノ内遺跡は昨年度まで7次にわたる発掘調査が実施され、縄文時代から近世にかけて、連綿と残されている人間の生活の痕跡が発見されるという大きな成果が得られております。

このたびの発掘調査はマンション建設に伴うもので第8次調査となります。仙台市営地下鉄南北線富沢駅の北西150mの地点で実施したもので、本書はその成果をまとめたものであります。

先人たちの残した文化遺産を保護し、活用しながら市民の宝として永く後世に伝えていくことは、これからの大切なことです。ここに報告する調査成果が、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査および調査報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成20年3月

仙台市教育委員会

教育長 荒井 崇

## 例　　言

1. 本書は集合住宅建設に伴い、平成19年7月17日から同年9月21日にかけて実施した仙台市太白区富沢四丁目12-3、30-3に所在する下ノ内遺跡第8次調査の成果を収録したものである。
2. 本調査は仙台市教育委員会の指導のもとに加藤建設株式会社が行った。
3. 出土遺物・資料の基礎整理及び本書の作成作業は、仙台市教育委員会文化財課　主濱光朗、工藤信一郎、加藤建設株式会社　森田信博が行った。
4. 本書の執筆は以下のとおり分担して行った。  
3-1)　主濱光朗　　1・2・3-2)　・4~10　　森田信博
5. 調査及び報告書の作成にあたり、野村不動産株式会社仙台支店のご協力をいただいた。
6. 本調査および報告書作成に関する諸記録、出土遺物などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

1. 本書の第1図は『1：25,000地形図　仙台南東部・仙台南西部』の部分に本遺跡の位置を加えた。  
第2図は『仙台市文化財分布地図』の部分に本遺跡の位置を加えた  
第3図は『IV 下ノ内遺跡発掘調査報告書』『仙台市文化財調査報告書266集 国分寺東遺跡他 発掘調査報告書』の第51図に本遺跡の位置を加えた。
2. 本調査に関する平面基準は、世界測地系に準拠した平面直角座標系とした。
3. 方位は真北を示す。標高は海拔高を示す。
4. 遺構には以下の略号を付した。  
掘立柱建物跡：S B　　土坑：S K　　溝跡：S D　　河跡：S R　　ピット：P  
繩文時代のピット：J P　不明遺構：S X
5. 本書で使用した遺物の略号は以下のとおりで、それぞれ種類別に番号を付した。  
繩文土器：A　　非ロクロ土師器：C　　ロクロ土師器・赤焼土器：D　　須恵器：E  
陶器・瓦質土器・土師質土器：I　　磁器：J　　石器・石製品：K　　金属製品：N
6. 本書中の土色については『新版標準土色帖2002年版（農林水産省農林水産技術会議事務局 監修　財團法人日本色彩研究所 色票監修）』に準拠した。
7. 遺物実測図および写真的縮尺は繩文土器・土師器・須恵器・陶磁器・石製品1：3、銭貨1：1である。

## 目 次

序文	
例言	
凡例	
1 調査要項	1
2 遺跡の位置と環境	1
3 調査に至る経緯と調査方法	2
1) 調査に至る経緯	2
2) 調査の経過と調査方法	2
4 基本層序	4
5 III層上面発見遺構と出土遺物	7
1) 掘立柱建物跡	7
2) 土坑	9
3) 溝跡	11
4) 小溝状遺構群	13
5) ピット	14
6) 河川跡	14
6 IV層発見遺構	19
1) 炭化物集中部	19
7 VI層上面発見遺構と出土遺物	20
1) 土坑	20
2) ピット	22
3) 不明遺構	22
8 下層調査	24
9 遺構外出土遺物	24
10 まとめ	27
1) III層上面	27
2) VI層以下	27
引用参考文献	28
写真	29
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置 .....	1	第13図 III層上面検出小溝状遺構群 .....	15
第2図 周辺の遺跡 .....	3	第14図 III層上面検出ピット .....	16
第3図 グリッド設定と既往の調査 .....	3	第15図 III層上面河川跡土層断面 .....	16
第4図 基本土層柱状図 .....	4	第16図 III層上面検出遺構出土遺物 .....	18
第5図 西壁土層断面・北壁土層断面 .....	5	第17図 IV層炭化物集中部 .....	19
第6図 東壁土層断面図・南壁土層断面 .....	6	第18図 VI層上面検出遺構分布 .....	20
第7図 III層上面検出遺構分布 .....	7	第19図 VI層上面検出土坑 .....	21
第8図 III層上面検出掘立柱建物跡 .....	8	第20図 VI層上面検出不明遺構 .....	23
第9図 III層上面検出土坑（1） .....	9	第21図 VI層上面検出遺構出土遺物 .....	23
第10図 III層上面検出土坑（2） .....	10	第22図 下層調査区 .....	24
第11図 III層上面検出溝跡土層断面（1） .....	11	第23図 下層調査区出土遺物 .....	25
第12図 III層上面検出溝跡土層断面（2） .....	13	第24図 遺構外出土遺物 .....	26

## 写真目次

写真1 III層上面遺構完掘状況（西より） .....	31	写真24 小溝状遺構群A全景（西より） .....	34
写真2 III層上面遺構検出状況（西より） .....	31	写真25 小溝状遺構07土層断面（南東より） .....	34
写真3 調査区西壁基本土層およびSD02土層断面（東より） .....	32	写真26 小溝状遺構群B 19・20（南より） .....	34
写真4 調査区南西壁基本土層（北より） .....	32	写真27 小溝状遺構群B 17・18（南より） .....	35
写真5 調査区東壁基本土層およびSR01土層断面（西より） .....	32	写真28 SR01全景（東より） .....	35
写真6 SB01掘立柱建物跡（北西より） .....	32	写真29 SR01土層断面（南西より） .....	35
写真7 SB01P21柱痕跡土層断面（東より） .....	32	写真30 IV層炭化物集中部（南より） .....	35
写真8 SB01P39柱痕跡土層断面（北東より） .....	32	写真31 VI層上面遺構完掘状況（東より） .....	35
写真9 SB01P67柱痕跡（南より） .....	32	写真32 VI層上面遺構検出状況（北より） .....	36
写真10 SB01P138柱痕跡（南より） .....	32	写真33 SK06（東より） .....	36
写真11 SK01土層断面（西より） .....	33	写真34 SK06土層断面（東より） .....	36
写真12 SK02土層断面（西より） .....	33	写真35 SK07（北東より） .....	36
写真13 SK03土層断面（東より） .....	33	写真36 SK07土層断面（北東より） .....	36
写真14 SK01～03（東より） .....	33	写真37 SK08（西より） .....	37
写真15 SK04（北より） .....	33	写真38 SK08土層断面（西より） .....	37
写真16 SK05炭化物出土状況（東より） .....	33	写真39 SK09（北より） .....	37
写真17 SD01土層断面A-A'（西より） .....	33	写真40 下層調査区（北より） .....	37
写真18 SD02土層断面C-C'（西より） .....	33	写真41 B5グリッド下層調査区北壁（南より） .....	37
写真19 SD01・02全景（東より） .....	34	写真42 C・D4グリッド下層調査区北壁（南より） .....	37
写真20 SD03全景（北東より） .....	34	写真43 C5下層調査区北壁（南より） .....	37
写真21 SD03土層断面C-C'（南より） .....	34	写真44 作業風景 .....	37
写真22 SD04・05全景（南より） .....	34	写真45 出土遺物1 .....	38
写真23 SD05土層断面A-A'（南より） .....	34	写真46 出土遺物2 .....	39

## 1 調査要項

遺跡名 下ノ内遺跡（第8次調査）

所在地 仙台市太白区富沢四丁目12-3、30-3

調査原因 集合住宅建設に伴う事前調査

調査期間 平成19年7月17日～9月21日

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当者 仙台市教育委員会文化財課

〃 主査 主濱光朗

〃 主任 工藤信一郎

加藤建設株式会社 調査員 森田信博

〃 調査補助員 小畠直輝

調査面積 調査対象面積 460,000m<sup>2</sup>

調査面積 III層上面 166,260m<sup>2</sup>

VII層上面 98,390m<sup>2</sup>



第1図 遺跡の位置 (1:25,000) ★:調査位置

## 2 遺跡の位置と環境

下ノ内遺跡は宮城県仙台市の南部中央に所在する。地理的にみると広瀬川と名取川にはさまれた扇状地性の沖積低地である郡山低地の中央部西よりである。郡山低地の中央部は荒川が東流している。荒川は青葉山丘陵の太白山付近を源流とし、途中、後田川、大流堀川の流れを合わせる。荒川の流路は河川改修で付け替えられており、新たに開削された新荒川は新古川で名取川と合流するが、旧荒川は富沢四丁目の下の内橋付近から東に向かい、大きく北に蛇行して流れ、下河原で名取川に合流する。下ノ内遺跡の範囲は新旧荒川が分岐する部分の東側で、北側に旧荒川、南側に新荒川が流れている。今回の調査地点は旧荒川に沿った範囲の北側中央部である。厚い

盛土下の旧地表面の標高は12.00～12.30mを測る。遺構確認面であるⅢ層上面の標高は調査区の南側で11.75～80mを測るが、北側は11.60～70mを測り、荒川に向かってごく緩やかに傾斜している。

下ノ内遺跡の範囲は新旧の荒川と地下鉄の高架に囲まれた約5haを測る。昭和56年に地下鉄建設に先立つ調査で発見され、その後区画整理事業や共同住宅建築に伴う発掘調査が実施されている。遺跡の時期は縄文時代中期から弥生時代、古墳時代、古代、中近世にわたる複合遺跡である。縄文時代では中期から晩期にかけての遺構や遺物が発見された。遺構は堅穴住居跡、炉跡、土坑、埋設土器、配石遺構、掘立柱建物跡等が発見されており、今回の調査地点の南東側から敷石住居が3軒検出された。弥生時代は土坑と遺物が検出された。土坑は墓である可能性も考えられており、土器は弥生時代後期天王山式である。古墳時代から古代にかけては堅穴住居跡、堅穴遺構、土坑、掘立柱建物跡、掘立柱列、溝跡、小溝状遺構群、鍛冶遺構等が発見された。時期は古墳時代塙釜式期、南小泉式期、栗田式期、奈良時代、平安時代である。中世から近世は溝跡、土坑、掘立柱建物跡が検出されており、溝跡で区画された屋敷跡と考えられる。

### 3 調査に至る経緯と調査方法

#### 1) 調査に至る経緯

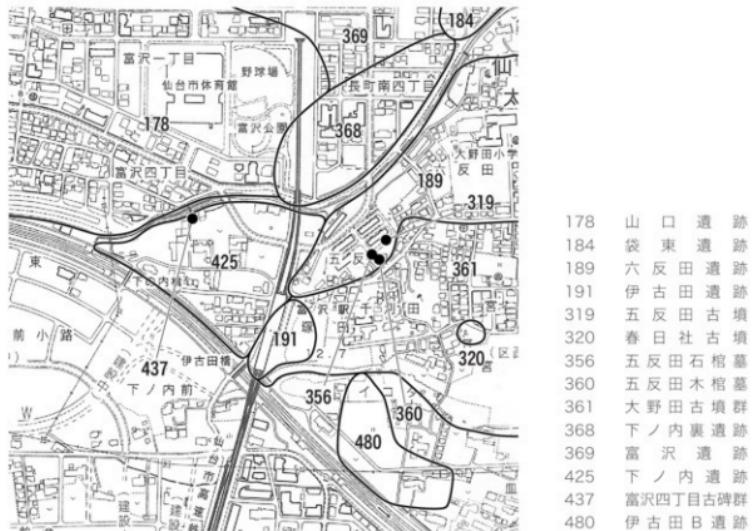
今回の調査は、平成18年11月18日付で、野村不動産株式会社より、仙台市太白区富沢四丁目12-3、30-3(1,200m<sup>2</sup>)について、深さ6mの掘削基礎工事を伴う共同住宅及び深さ4mの機械式駐車場建設にかかる「埋蔵文化財の取り扱いについて（協議）」が提出された。仙台市教育委員会では、当該地周辺で「仙台市高速鉄道南北線建設事業」「富沢駅周辺地区画整理事業」による発掘調査により、近世から縄文時代中期に亘る遺構と遺物が確認されていることから、遺構確認調査を実施し、その上で必要な場合は、本発掘調査を実施する旨の回答文を通知した。確認調査は平成19年2月5日～7日に実施した。建設予定地に4箇所のトレンチを設定して調査を行ったところ、機械式駐車場部分は旧河道にあたり遺構面が残存しないことが確認した。共同住宅部分では古代及び縄文時代の遺構面が確認され、本発掘調査が必要である旨の通知をした。その後、幾度かの協議を経て、下ノ内遺跡第8次調査として、平成19年7月17日より発掘調査を実施することとした。

#### 2) 調査の経過と調査方法

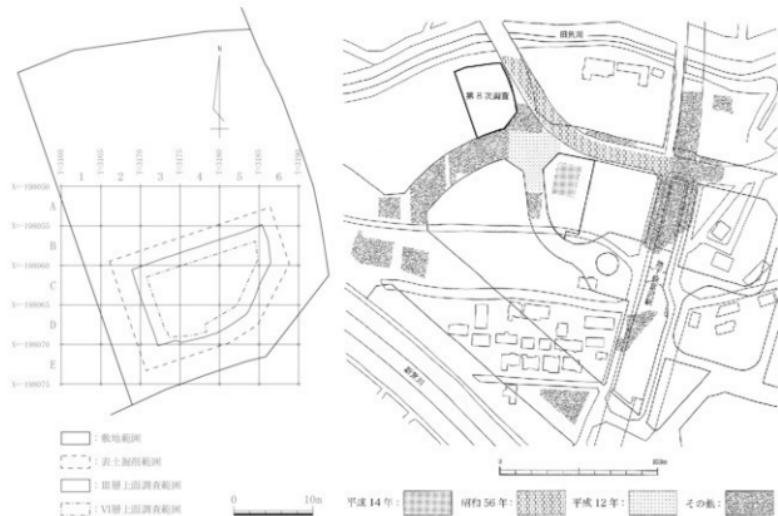
発掘調査は平成19年7月13日に器材の搬入、調査準備を行い、翌週から開始した。重機表土掘削後、調査範囲内に公共座標系に基づくグリッドを設定した。グリッドは5m四方を1区画として、表土掘削範囲を覆うように設定した。西から東に、アラビア数字1～6、北から南にアルファベットのA～Eを付した。

今回の発掘調査は2枚の遺物包含層と2面の遺構検出面を調査対象とするものである。包含層から出土した遺物はグリッド単位で取り上げた。包含層掘削は側溝の断面にみられる層序に基づいて、地形、堆積に沿って行い、8月2日にⅢ層上面遺構確認写真を撮影した。遺構調査は新しいものから行い、掘削した遺構はトータルステーションを用いて実測した。遺構から出土した遺物の取上げはドットと層位上げを併用した。

2面目の発掘調査はV層（遺物包含層）を人力掘削してVI層を遺構検出面とするものである。中間層であるⅢ・IV層は重機を用いて掘削した。9月5日よりグリッド杭の設定とV層の人力掘削を行った。出土遺物はグリッド単位で取り上げた。9月12日より遺構調査を行い、並行して、下層調査区を設けVI層以下の層序の確認、及び遺物、遺構分布について調査を行った。VI層の調査は9月19日まで行った。その後、深掘区から遺物が出土したため、下層調査範囲を広げて20日まで調査を行った。9月21日に調査区全景写真を撮影して発掘調査を完了した。



第2図 周辺の遺跡



第3図 グリッド設定と既往の調査

## 4. 基本層序

調査範囲を含む富沢駅周辺は、土地区画事業により大規模な盛土がなされている。第8次調査地点付近では盛土は特に厚く、旧地表面までの深さは1.8~2.1m以上に及ぶ。碎石による盛土の下部は、旧表土である褐色~暗褐色を呈するシルト質粘土が堆積する。

今回の発掘調査では、先立って行われた試掘調査の3トレンチ、4トレンチの層序に準拠して分層を行った。試掘調査で掘削していないVII層以下は4箇所の下層調査区の土質、土色、出土遺物を踏まえてX層まで分層した。

盛 土：碎石を主体とし、山砂を含む。層厚は210cmである。

I 層：暗褐色（10YR3/4）を呈するシルト質粘土である。少量のにぶい黄褐色粘土をブロック状に含む。焼土、炭化物粒を含む。層厚は15~30cmである。

II 層：黒褐色（10YR3/2）を呈するシルト質粘土である。少量の褐灰色砂粒、炭化物粒を含む。西側では層厚は15~20cmであるが、東側では大部分が盛土により削平されている。既往の調査では上面から中世の所産であると考えられる掘立柱建物跡、溝跡などが確認されている。中・近世、古代の遺物包含層である。

III 層：にぶい黄褐色（10YR5/4）を呈する粘土質シルトである。褐灰色砂を斑文状に含む。少量の黒色有機物粒、酸化鉄粒を含む。層厚は25~35cmである。第8次調査の中・近世及び古代の遺構確認面である。

IV 層：暗褐色（10YR3/4）を呈する粘土質シルトである。粘性が強い。層厚は15~25cmである。C3グリッドで炭化物集中範囲が検出されているほか（図4）、E3グリッドの調査区前面の壁面において炭化物集中部がみられた。

V 層：褐色（10YR4/4）を呈するシルト質粘土である。層厚は25cm前後である。縄文時代後期土器を包含する。

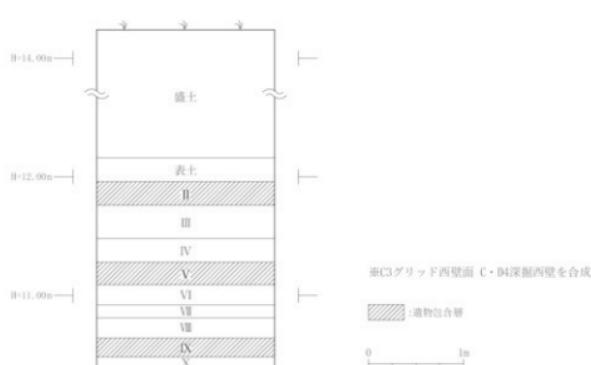
VI 層：明黄褐色（10YR6/6）を呈するシルトである。多量の明橙色粘土ブロック、少量の黒色有機物粒、酸化鉄粒を含む。層厚は20cm前後である。縄文時代後期の遺構確認面である。縄文時代後期土器を包含する。

VII 層：にぶい黄褐色（10YR5/4）を呈するシルト質粘土である。粘性が強い。多量の褐灰色粘土ブロック、少量の酸化鉄粒を含む。層厚は12cm前後である。

VIII 層：にぶい黄褐色（10YR6/4）を呈する粘土である。多量の褐灰色粘土ブロック、少量の酸化鉄粒を含む。層厚は20cmである。縄文時代中期土器を包含する。

IX 層：暗褐色（10YR3/4）を呈する粘土である。粘性に富む。多量の褐灰色粘土ブロックを含む。少量の炭化物粒、酸化鉄粒を含む。層厚は25cm前後である。縄文時代中期土器を包含する。

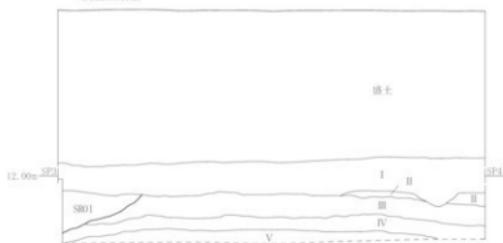
X 層：灰黄褐色（10YR5/2）を呈するシルトである。多量の褐色シルトを含む。斑文状に酸化が進む。層厚は14cm前後である。



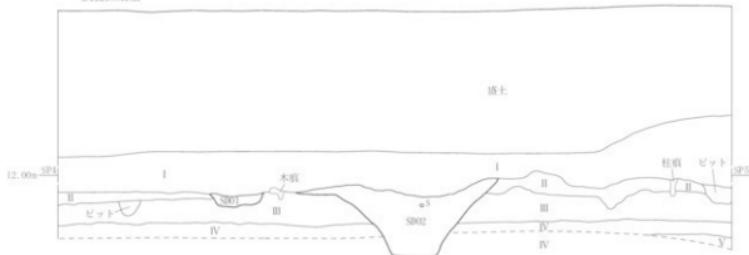
第4図 基本土層柱状図

第5図 西壁土層断面・北壁土層断面

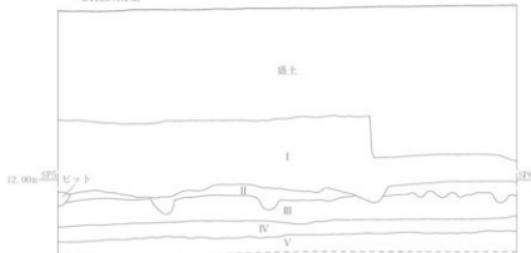
調査区東壁



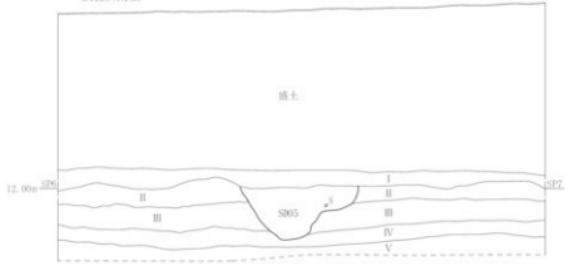
調査区東壁



調査区南壁



調査区南壁



第6図 東壁土層断面・南壁土層断面



## 5 III層上面発見遺構と出土遺物

III層上面では掘立柱建物跡1棟、土坑5基、溝跡5条、小溝状遺構21条、ピット175基、河川跡1条が検出された。下ノ内遺跡第8次調査の試掘調査では、II層上面が中近世の遺構確認面であり、III層は本来、古代の遺構確認面であった。しかしII層の層厚が比較的薄く、部分的には堆積していない箇所も存在したため、III層上面を最初の遺構確認面として遺構調査を行った。検出された遺構は古代から中近世の幅に位置付けられるものと考えられる。

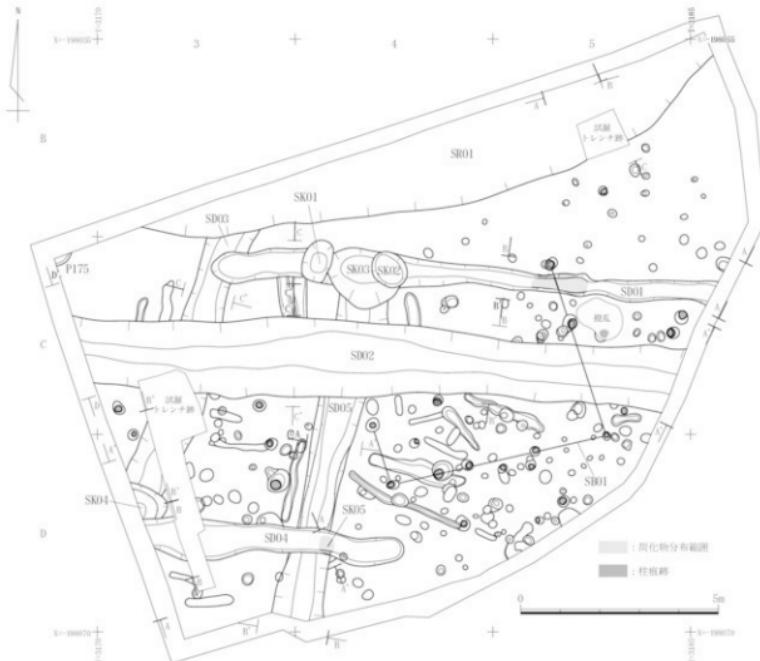
### 1) 掘立柱建物跡

#### S B O 1 掘立柱建物跡

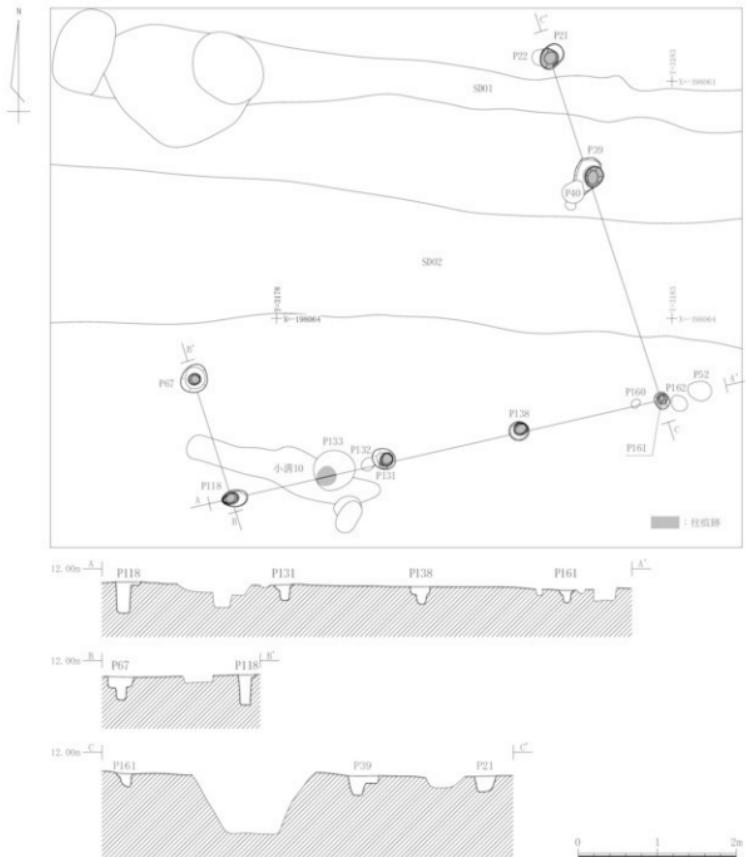
【位置・重複】 調査範囲の中央部から検出された。P21がP22を、P131がP132を切り、P39がP40に切られる。

SD01・02・05と直接の切り合いはないが重複している。

【規模・配置・方向】 検出部の建物の規模は東西3間で、南辺のみが検出されており5.56mを測る。南北は3間で西辺は2基、東辺は3基の柱穴が確認されている。東辺は4.52mを測る。南北列の方向は東辺でN-18°-Wを訓る。



第7図 III層上面検出遺構



ビット番号	規模(cm)				掘り方		柱根跡		備考
	長径	短径	深さ	柱根跡	土色	土質	土色	土質	
021	34	*	25	21	24	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト P22を切る。
039	-	*	36	22	30	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	2.5V4/2 鮎灰黄色	シルト P40に切られる。
067	35	*	33	28	15	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	2.5V4/2 鮎灰黄色	粘土質シルト P22を切る。
118	32	*	22	37	24	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色	シルト P22を切る。
131	30	*	26	20	20	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色	シルト P132を切る。
138	25	*	24	21	18	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト P22を切る。
161	22	*	19	20	15	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色	シルト P22を切る。

第8図 III層上面検出立柱建物跡

**【柱穴・柱痕跡】** 検出された7基の柱穴のすべてから柱痕跡が検出されている。柱掘り方は円形ないし梢円形を呈する。径は19~40cmを測る。柱痕跡は径15~30cmを測るが、平均は20cmである。掘り方の深さは平均24cmを測る。

**【堆積土】** 黒褐色を呈し炭化物を含むシルトである。

**【出土遺物】** 遺物は出土しなかった。

## 2) 土坑

### S K 0 1 土坑

**【位置・重複】** 調査区の中央部北側、C4グリッドから検出された。SK03、SD01を切る。

**【平面形・規模】** 平面形は隅丸長方形を呈する。長径107cm、短径72cmを測る。底面は長径50cm、短径40cmを測る。

**【深さ・断面形】** 深さは21cmを測る。断面形は舟底形を呈する。

**【堆積土・出土遺物】** 堆積土は単層である。黒褐色を呈するシルトで植物遺体を含む。遺物は出土しなかった。

### S K 0 2 土坑

**【位置・重複】** 調査区の中央部北側、C4グリッドから検出された。SK03、SD01を切る。

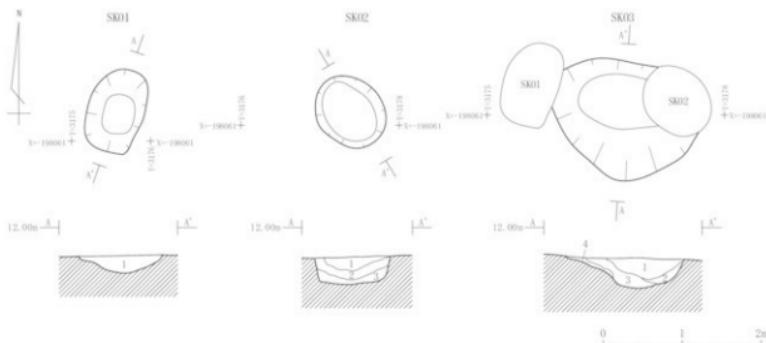
**【平面形・規模】** 平面形は梢円形を呈する。長径97cm、短径81cmを測る。底面は長径83cm、短径57cmを測る。

**【深さ・断面形】** 深さは37センチを測る。断面形は筒状を呈する。

**【堆積土・出土遺物】** 堆積土は3層に分けられる。1層はにぶい黄褐色を呈する粘土質シルト、2層は炭化物を含む。遺物は出土しなかった。

### S K 0 3 土坑

**【位置・重複】** 調査区の中央部北側、C4グリッドから検出された。SK01・SK02に切られ、SD01を切る。



遺構	土質No.	上色	土質	備考
SK01	1	2.5YR5/2 黒褐色	シルト	炭化した植物遺体を少量、明黄褐色砂をブロック状に多く含む。
SK02	1	10YR5/3 にぶい 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロックを多量に含む。
	2	10YR3/3 黑褐色	シルト	炭化物粒を少量含む。
	3	10YR4/4 黑褐色	シルト	炭化物粒、黄褐色砂を少量含む。
SK03	1	10YR5/3 にぶい 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色砂、明黄色土ブロックを多量に含む。
	2	10YR3/4 黑褐色	粘土質シルト	少量の炭化物粒を含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	灰を主体とし、炭化物を多量、純土粒を少量含む。
	4	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	褐色砂を砂粒を多量に含む。

第9図 III層上面検出土坑（1）

SD05との新旧関係について、発掘調査ではSK03を新しいものと考え、先行して調査を行ったが、堆積土に多量の炭化物を含む点が共通している。SK03はSD05の北端に位置しており、なんらかの関連性が考えられる。

**【平面形・規模】** 平面形は梢円形を呈する。長径はSK01・SK02に切られており不明である。短径は150cmを測る。底面は残存長径100cm、短径70cmを測る。

**【深さ・断面形】** 深さは39cmを測る。断面形は船底形を呈する。

**【堆積土・出土遺物】** 堆積土は4層に分けられる。1層は黄褐色を呈する粘土質シルト、3層は灰および炭化物層、4層は砂質シルトである。遺物は陶器1点が出土している。I-1（第16図5）は古瀬戸の陶器折縁深皿の口縁部破片である。古瀬戸後期、15世紀の所産であろう。

#### SK04土坑

**【位置・重複】** 調査区の南北側、C3グリッドから検出された。西側は調査区域外に及ぶ。確認面はIII層上面であるが、調査区西壁の断面からII層上面から掘り込まれている。SD03を切り、SD04に切られる。

**【平面形・規模】** 残存部から円ないし梢円形を呈するものと考えられる。南東～北西方向の残存径は120cmを測る。底面は長径70cm以上を測る。

**【深さ・断面形】** 深さは70cmを測る。残存部の壁は急傾斜で底径は小さい。

**【堆積土・出土遺物】** 3層に分けられる。にぶい黄褐色、黒褐色を呈する粘土質シルトで少量の炭化物を含む。遺物は繩文土器1点が出土した。小破片であるため図示しなかった。

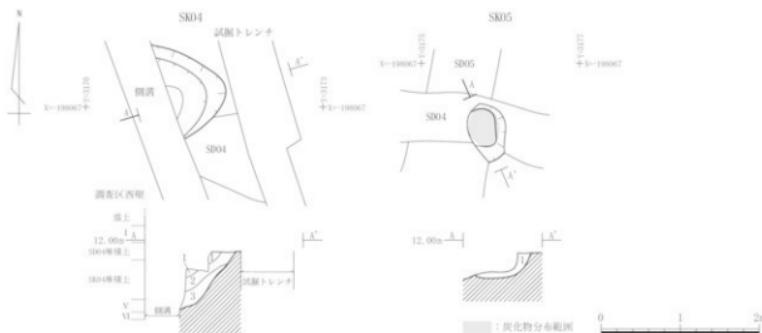
#### SK05土坑

**【位置・重複】** 調査区の南北寄り、D4グリッドから検出された。SD04に上面を切られ、SD05を切る。

**【平面形・規模】** 平面形は梢円形を呈し、長径75cm、短径48cmを測る。底面は長径48cm、短径35cmを測る。

**【深さ・断面形】** 深さ33cmを測る。断面形は舟底形を呈する。

**【堆積土・出土遺物】** 堆積土は黄灰色を呈するシルトである。遺物は鉄製品1点が出土した（写真46-19）。棒状を呈するが両端を欠損しており、錫膨れのため断面形も不明である。



遺構	上層%	土色	土質	備考
SK04	1	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物を少額、黄灰色砂をブロック状に多く含む。
	2	10YR5/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多額、黄灰色砂を帶状に含む。
	3	10YR5/3 細褐色	粘土質シルト	炭化物細、褐色ブロックを多額、無鉄鉱石を少額含む。
SK05	1	5Y7/3 オリーブ黄	シルト	炭化物を多額に含む。

第10図 III層上面検出土坑（2）

### 3) 溝跡

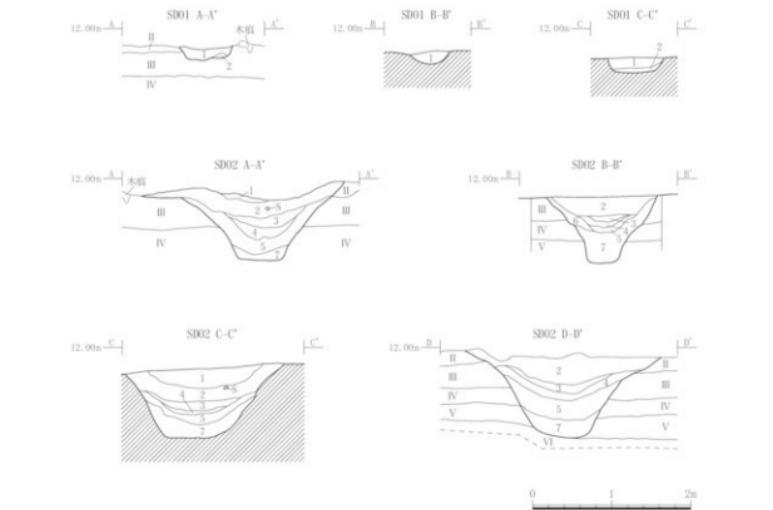
#### S D 0 1 溝跡

**【位置・重複】** 調査区の中央部北側、C3～C6グリッドを東西に走る。東側は調査区域外に延びるが、西側はC3グリッドで途切れる。確認面はIII層上面であるが、調査区東壁の断面からII層上面から掘り込まれている。SK01・SK02・SK03に切られ、SD03、小溝19・小溝20を切る。

**【長さ・方向・幅】** 検出された溝跡の全長は12.78mを測る。方向はN-87°-Wである。幅は東側で50cm、底幅35cm、西側で80cm、底幅60cmを測る。

**【深さ・断面形】** 深さは西側が深く33cmを測る。東側に向かって約15cm浅くなる。断面形は船底形を呈する。

**【堆積土・出土遺物】** 堆積土は2層に分けられる。灰黄褐色～褐灰色を呈する粘土質シルトを主体としており炭化物粒を含む。東側の底面から炭化物集中部が検出された。層位は2層に相当する。長さ140cmの範囲に炭化物、灰が分布していた。遺物は縄文石器1点、土器器3点、動物遺体2点（貝、骨）が出土した。K-1（写真46-3）はスクレーバーである。著しく欠損するため図示していない。石材は頁岩である。先端と側面に刃部を作出している。



層	上層	下層	土質	備考
SD01	1	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	黄褐色細砂粒を多量、炭化物粒、鈍化鉄粒を少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	青褐色砂粒を多量、炭化物粒を中量含む。
SD02	1	10YR5/4 にい黄褐色	シルト	褐色の植物遺体を少量含む。きめ細かい。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	青褐色砂粒を多量に含む
	3	5Y6/2 にいオリーブ色	砂質シルト	部分的に鈍化による赤斑を有する。
	4	5Y6/1 褐色	砂質シルト	よりきめ細かく、鈍化による赤斑がみられる。
	5	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	灰褐色砂粒を多量、植物遺体を少額含む。鈍化による赤い赤斑がみられる。
	6	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	灰褐色砂粒、鈍化鉄を少量含む。
	7	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	灰褐色砂粒、鈍化鉄を多量、植物遺体を少量含む。

第11図 III層上面検出溝跡土層断面（1）

## S D 0 2 溝跡

【位置・重複】 調査区の中央部、C2～C5グリッドを東西に走る。東側、西側とも調査区域外に延びる。確認面はIII層上面であるが、調査区東・西壁の断面からII層上面から掘り込まれている。SD03・SD05、小溝17～21、P30・P51・P71を切る。

【長さ・方向・幅】 検出された溝跡の全長は15.52mを測る。方向はN-87°-Wである。幅は中央部西側が最大で、200cm、底幅70cmを測る。

【深さ・断面形】 深さは西側が深く94cmを測り、東側へ向かって約10cm浅くなる。断面形は逆台形を呈する。

【堆積土・出土遺物】 4箇所のベルトを設けて分層した。堆積土は7層に分けられた。1・2層は黄褐色を呈し、基本土層III層と類似している。3・4層は砂を主体とする。6・7層はしまりの強いシルトで酸化鉄を含む。遺物は甌文土器6点、土師器10点、須恵器1点、陶磁器2点、砥石1点、錢貨1点、金属製品1点、礫が出土した。E-1（第16図3）は須恵器壺の胸部破片で確認面（2層）から出土している。E-2（第16図4）は須恵器壺の胸部下半で2層から出土している。J-1は中国龍泉窯の青磁碗の胸部破片である。小破片のため図示していない。14～16世紀の所産と考えられる。K-2（第16図9）は砥石で石材は凝灰岩である。2層から出土している。N-1（第16図10）は北宋銭「元豐通宝」で2層から出土している初鋤は元豐元（1078）年である。図示していないが、このほかに堤焼と考えられる陶器擂鉢の口縁部破片が遺構確認面から出土している。胎土は砂混じりで暗灰～暗赤褐色を呈し、堅緻である。内・外ともに鉄釉が施される。内面には櫛目が見られる。18世紀の所産であると考えられる。礫は西側のC2グリッドからこぶし大から人頭大のものがまとまって出土した。

## S D 0 3 溝跡

【位置・重複】 調査区の西側、B3～D3グリッドを南西から北東方向に走る。北西側はSR01に切られる。南東側は調査区域外へ延びる。確認面はIII層上面であるが、調査区西壁の断面からII層上面から掘り込まれている。SK04、SD01・SD02・SD04に切られる。

【長さ・方向・幅】 検出された溝の全長は7.64mを測る。方向はN-20°-Eである。幅108cm、底幅60cmを測る。

【深さ・断面形】 深さは34cmを測る。確認面からの深さは南側と北側で変わらないが、底面の高さは南側が高く、北側が約32cm深い。断面形は舟底形を呈する。

【堆積土・出土遺物】 堆積土は6層に分けられる。1・2層は暗褐色～黒色、3～6層は灰色を呈するシルトで、全体に炭化物を含む。遺物は出土しなかった。

## S D 0 4 溝跡

【位置・重複】 調査区の南西側、D3～D4グリッドを東西方向に走る。西側は調査区域外の延びる。東側はD4グリッド中央部で途切れる。確認面はIII層上面であるが、調査区西壁の断面からII層上面から掘り込まれている。西側でSK04、SD03、東側でSK05、SD05を切る。

【長さ・方向・幅】 検出された溝の全長は6.60mを測る。方向はN-85°-Wである。幅104cm、底幅78cmを測る。

【深さ・断面形】 深さは西側が深く33cmを測る。東側へ向かって浅くなり途切れる。断面形は船底形を呈する。

【堆積土・出土遺物】 堆積土は3層に分けられる。暗オリーブ褐色を呈するシルトで黄灰色砂を含む。遺物は土師器10点、須恵器1点、磁器1点、砥石1点、鐵釘1点が出土した。J-2（第16図6）は中国景德鎮窯の磁器碗である。外面には青花により唐草文が描かれる。16世紀末～17世紀中葉の所産である。K-3（第16図8）は砥石である。

## S D 0 5 溝跡

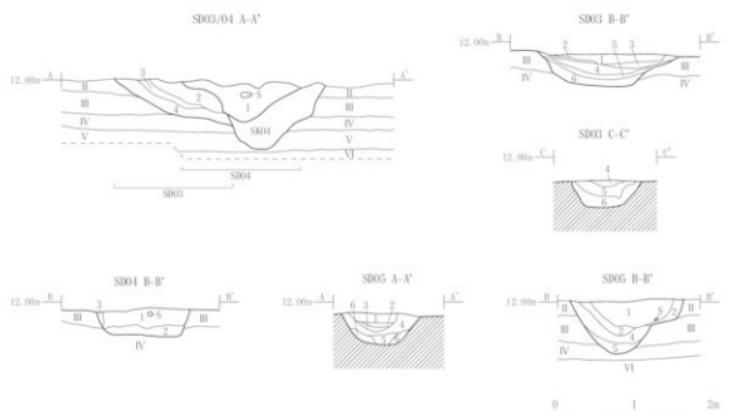
【位置・重複】 調査区の南西寄りD3グリッド南東側から調査区中央部C4グリッドを南西から北東方向へ走る。

南西側は調査区区域外に延びる。確認面はIII層上面であるが、調査区南壁の断面からII層上面から掘り込まれている。北東側はSK03と重複して終結しており、以北には延びていない。SD02・SD04に切られる。

【長さ・方向・幅】 検出された溝の全長は8.24mを測る。方向はN-12°-Eである。幅は130cm、底幅65cmを測る。

【深さ・断面形】 深さは51cmを測る。北側と南側で底面の高低差はない。断面形はおおむねU字形を呈するが、北側の西壁の立ち上がり緩やかな段を有する。

【堆積土・出土遺物】 堆積土は6層に分けられる。黄灰色を呈するシルトを主体としており炭化物を含む。遺物は縄文土器2点、土師器6点が出土した。小破片であるため図示しなかった。



遺構	上層No.	下色	土質	備考
SD03	1	10YR3/3稍褐色	粘土質シルト	炭化物少。明黃褐色砂をブロック状に多く含む。
	2	10YR2/1黒褐色	シルト	炭を主体とし、炭化物を多量に含む。
	3	7.5Y5/1灰褐色	粘土質シルト	炭化物少。明黃褐色砂をブロック状にやや多く含む。
	4	7.5Y4/1灰褐色	シルト	炭化物粒、明黃褐色砂を多量含む。
	5	7.5Y4/1灰褐色	シルト	明黃褐色土粒、炭化物粒を多量含む。
	6	7.5Y6/1灰褐色	シルト	炭化物少。明黃褐色砂をブロック状に多く含む。マンガン粒を多く含む。酸化が著しい。
SD04	1	2.5Y3/3稍オリーブ褐色	シルト	炭化物を多量。明黃褐色砂をブロック状に多く含む。
	2	2.5Y3/3稍オリーブ褐色	シルト	炭化物を多量。明黃褐色砂をブロック状に少量含む。
	3	2.5Y3/2灰褐色	シルト	炭化物を多量。明黃褐色砂をブロック状に多く含む。
SD05	1	2.5Y5/1黄色	砂質シルト	炭化物少。明黃褐色砂をブロック状に多く含む。
	2	2.5Y5/1黄色	砂質シルト	炭化物を多量。明黃褐色砂をブロック状に多く含む。
	3	2.5Y5/1黄色	シルト	2層よりも色調がやや暗い。
	4	2.5Y6/1黄色	砂質シルト	炭化物をやや多く含み、明黃褐色砂をブロック状に少量含む。
	5	2.5Y6/1黄色	粘土質シルト	炭化物を少量。明黃褐色砂をブロック状にやや多く含む。
	6	2.5Y7/6明黃褐色	シルト	崩落。

第12図 III層上面検出溝跡土層断面（2）

## 4) 小溝状遺構群

小溝状遺構は21条検出された。これらは畑の耕作痕と考えられる。このうち堆積土、方向性に共通性が看取されるものが2群認められA・Bに分けた。A・B群は直接の切り合い関係はない。確認面はIII層であるが、B群がやや低く、時期的にさかのぼる可能性が考えられる。このほかに群に属さないものが9条ある。

#### 小溝状遺構群A

【位置・方向・重複】 10条検出された。小溝1・2・7～12・14・15が該当する。調査区の南西側から中央部、C・D3～C・D5グリッドにかけて、SD02の南側に分布する。北西から南東方向に延びる。

【長さ・幅・深さ】 最も長い小溝17が4.07mである。幅は上面18～36cm、底面15～25cmを測る。深さは4～14cmで断面形は船底形を呈する。

【堆積土・出土遺物】 堆積土は黒褐色ないし暗オリーブ褐色を呈し、明褐色の砂質ブロックを含む。遺物は小溝8から土師器が4点出土しているが、小破片のため図示しなかった。

#### 小溝状遺構群B

【位置・方向・重複】 5条検出された。小溝17～21が該当する。C3・C4グリッドのSD02北側に分布する。南北方向に延びるが、小溝17・18がやや東よりに傾くのに対して、小溝19～21はやや西よりに傾く。SD02に切られる。

【長さ・幅・深さ】 最も長い小溝19・20が1.01mである。幅は上面22～34cm、底面15～28cmを測る。深さは4～110cmで断面形は船底形を呈する。

【堆積土・出土遺物】 堆積土は灰褐色を呈する砂質シルトで炭化物、マンガン粒を含む。遺物は出土しなかつた。

### 5) ピット

ピットは掘立柱建物跡の7基を含めて175基検出された。分布は調査区の全域にわたるが、調査区の北側を東西に走るSD01を境に南側が密で、北側のSR01寄りは疎である。遺物は8基のピットから土師器が11点出土しているが、遺構との関連は不明である。柱痕跡のあるピットはSB01の7基を含めて25基を数える。堆積土は以下の2種に大別して一覧表に記号で記した。大部分のピットはAを堆積土とする。

A 2.5Y3/2黒褐色 シルト 炭化物を少量、ブロック状の明褐色砂を少量含む。

B 2.5Y6/1黄灰色 砂質シルト 炭化物、マンガン粒を少量含む。

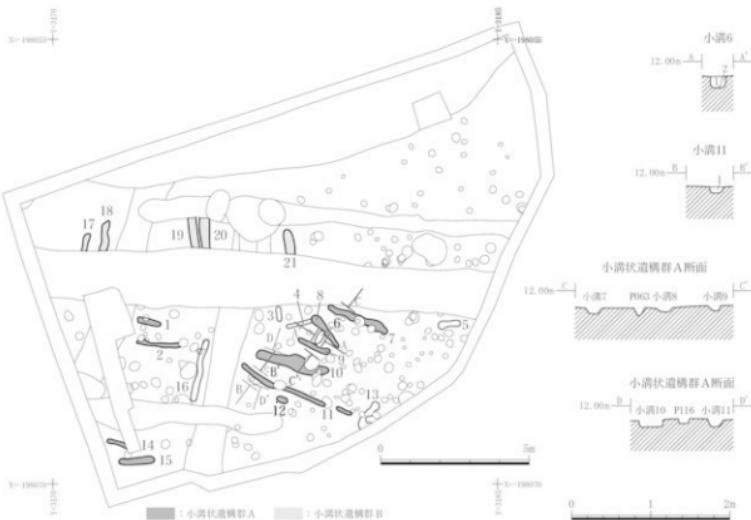
### 6) 河川跡

#### S R 0 1 河跡

【位置・重複】 調査区の北側B3～B6グリッドに位置する。確認面はIII層上面である。東西方向の河跡で、中央部は南側に湾曲している。SD03を切る。

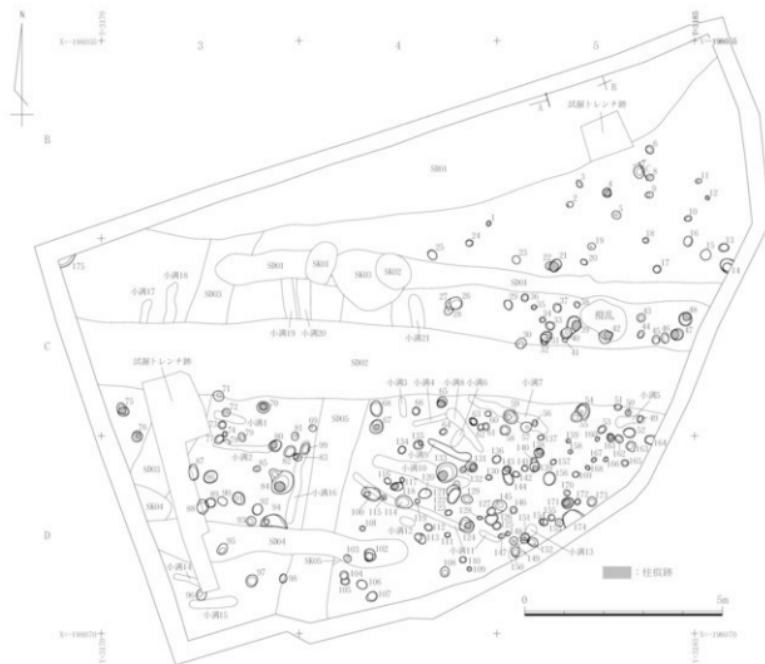
【深さ・断面形】 立ち上がりの傾斜は44°を測る。底面まで掘削していないため深さ・断面形は不明である。

【堆積土・出土遺物】 堆積土は6層に分けられた。確認面であるIII層が褐灰色砂を斑文状に含む粘土質シルトであるのに対して、堆積土は全般的に含有物の少ない粘土質シルトを主体としている。4層が壁際の堆積土で、黒褐色のブロックを含み、確認面であるIII層と明確に分かれた。堆積土の下層はシルトと粘土が互層を成す。出土遺物は繩文土器16点、土師器4点、須恵器1点、陶器（柘器）1点である。I-2（第16図7）は柘器壺類胴部破片である。胎土は砂礫混じりで橙褐色を呈し、堅緻である。粘土紺巻き上げ技法により成形され、外面には方形および長方形正格子文の押印が見られることから常滑産と考えられるが、本遺跡が仙台市内に所在するという地理的要素を考慮に入れ、東海地方からの技術移入が見られる八郎窯産である可能性も指摘しておきたい。いずれの場合も13世紀の所産であるが、常滑ならば5型式・13世紀前葉、八郎窯ならば13世紀後半である。

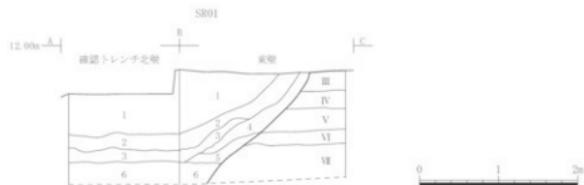


群	遺構名	規 模 (m)	主軸方向	土 色	土 質	備 考
A群	小溝 01	82 × 22 12	N 77° W	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量、明黃褐色をブロック状に多く含む。
	小溝 02	(150) × 18 12	N 85° W	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量、明黃褐色をブロック状に多く含む。
	小溝 07	218 × 36 8	N 67° W	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	明黃褐色をブロック状にやや多く含む。
	小溝 08	137 × 32 12	N 39° W	2.5Y3/3 單オリーブ褐色	粘土	炭化物をわずかに含み、黄褐色砂をブロック状に少量、マンガン鉱を含む。
	小溝 09	118 × 20 4	N 66° W	2.5Y3/3 單オリーブ褐色	粘土	明黃褐色をブロック状に少量含む。
	小溝 10	250 × 55 8	N 74° W	2.5Y3/3 單オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量、黄褐色砂をブロック状に少額含む。
	小溝 11	407 × 21 7	N 66° W	2.5Y4/2 單灰黄色	砂質シルト	炭化物をわずかに含み、黄褐色砂をブロック状にや多く含む (G.)。
	小溝 12	40 × 22 14	N 67° W	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	明黃褐色をブロック状に少額含む。
	小溝 14	670 × 15 7	N 74° W	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物をや多く含み、黄褐色砂をブロック状に少額含む。色調暗褐色に近い。
	小溝 15	123 × 26 6	N 85° E	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物を少量、黄褐色砂をブロック状に少額含む。明黃褐色砂をブロック状にや多く含む。
	小溝 17	(60) × 22 4	N 10° E	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	炭化物を少量、黄褐色砂をブロック状に少額。明黃褐色砂をブロック状にや多く含む。
	小溝 18	102 × 26 4	N 8° E	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	炭化物を少量、黄褐色砂をブロック状に少額。明黃褐色砂をブロック状にや多く含む。
	小溝 19	(101) × 30 6	N 7° W	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	炭化物を少量、黄褐色砂をブロック状に少額。明黃褐色砂をブロック状にや多く含む。
	小溝 20	(101) × 34 10	N 2° W	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	炭化物を少量、黄褐色砂をブロック状に少額。明黃褐色砂をブロック状にや多く含む。
	小溝 21	(83) × 33 7	N 7° W	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	炭化物を少量、黄褐色砂をブロック状に少額。明黃褐色砂をブロック状にや多く含む。
B群	小溝 03	50 × 16 15	N 5° W	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	明黃褐色砂をブロック状に少額含む。
	小溝 04	(92) × 13 5	N 76° E	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化した植物遺体を少量。明黃褐色をブロック状に多く含む (H.)。
	小溝 05	85 × 28 10	N 84° E	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物を少量、明黃褐色砂をブロック状に少額含む。
	小溝 06	46 × 19 14	N 36° E	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	炭化物を少量、明黃褐色砂をブロック状に多く含み、炭化した植物遺体を少額含む。
	小溝 13	106 × 28 12	不明	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	明黃褐色砂をブロック状に少額含む。
	小溝 16	213 × 22 10	N 12° E	2.5Y4/1 黄褐色	砂質シルト	炭化物をわずかに含み、黄褐色、明黃褐色砂をブロック状に少額含む。

第13図 III層上面検出小溝状遺構群



第14図 III層上面検出ピット



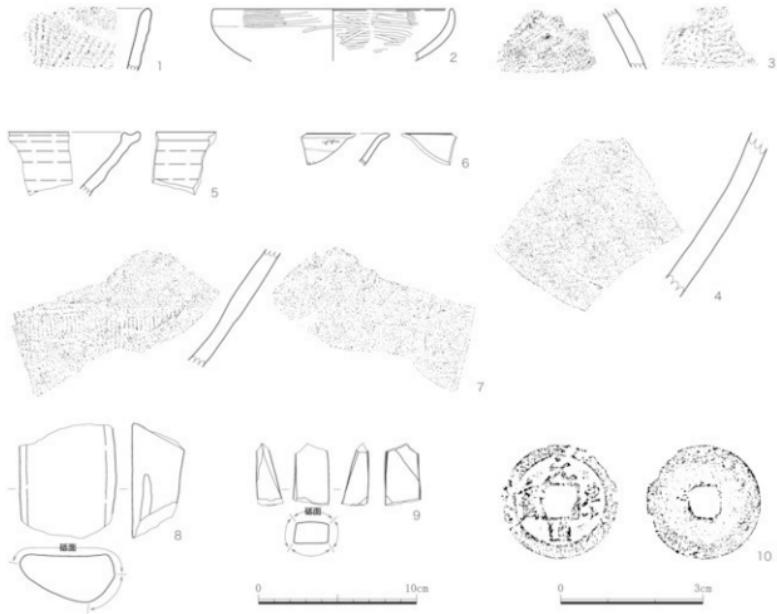
番号	層位	土色	土性	備考
SR01	1	10YR3/3褐色	粘土質シルト	植物遺体、褐色粒を少量含む。
	2	10YR4/1褐色灰土	粘土質シルト	砂粒、炭化物粒、鈍化鉄粒を少額含む。
	3	10YR5/1褐色灰土	砂質シルト	鈍化したシルトを主体とする。現状に酸化が進む。
	4	10YR4/1褐色灰~3/2黒褐色	粘土	黒褐色粘土プロック、明瞭色砂質プロック、灰色砂が混在する。
	5	10YR4/2灰黄褐色	粘土	黒褐色粘土プロックと灰褐色シルトがラミナ状に堆積する。鈍化鉄粒をや多く含む。
	6	5Y5/2灰オーバー色	シルト	明黄色鈍化砂層を互層を成す。きめ細かい、植物遺体を少額含む。

第15図 III層上面検出河川跡土層断面

III層上面ビット一覧表

ビット 番号	規格 (cm) 寸法 × 寸法 (深さ)	掘削土 出土遺物	柱根跡 規格	調 考
P1 14 × 11 8 A				
P2 17 × 15 8 A				
P3 19 × 16 8 A				
P4 23 × 22 9 A	↑脚跡 1 点	18 × 12		
P5 23 × 19 15 A				
P6 22 × 20 12 A				
P7 33 × 27 25 A				
P8 19 × 17 12 A				
P9 21 × 16 18 A				
P10 18 × 14 7 A				
P11 16 × 12 4 A				
P12 11 × 10 7 A				
P13 26 × 21 4 A				
P14 16 × 36 18 A				
P15 26 × 25 5 A				
P16 25 × 23 3 A				
P17 20 × 25 14 A				
P18 15 × 15 8 A				
P19 19 × 16 16 A	↑脚跡 1 点			
P20 18 × 14 6 A				
P21 21 × 21 9 A	↑脚跡 1 点	P21に切られる。		
P22 22 × 20 5 A				
P24 18 × 18 10 A				
P25 26 × 21 5 A				
P26 (52) × 31 29 A		P27・28を切る。		
P27 28 × 18 A		P26に切られ、P28を切る。		
P28 × 28 27 A		P27に切られる。		
P29 26 × 21 14 B				
P30 × 25 13 A				
P31 21 × 26 8 A		P32を切る。		
P32 21 × 19 A		P31に切られる。		
P33 23 × 22 14 A				
P34 15 × 14 9 A				
P35 14 × 12 12 B				
P36 19 × 19 12 B				
P37 23 × 20 11 A				
P38 16 × 14 10 A				
P39 31 × 27 29 A		P39・41を切る。 P40に切られる。		
P41 13 × 11 A				
P42 (34) × 18 A	24 × 22			
P43 21 × 21 6 A				
P44 21 × 16 6 A				
P45 22 × 20 21 A				
P46 26 × 25 14 A				
P47 32 × 29 19 A	24 × 22			
P48 34 × 32 22 A	24 × 22			
P49 17 × 15 14 A		↑脚跡 9 点 18 × 17		小西 95に切られる。
P50 17 × 17 14 A	↑脚跡 9 点 18 × 17			
P51 20 × 8 A		SDD01に切られる。		
P52 29 × 25 16 A				
P53 23 × 18 13 A				
P54 41 × 36 58 A		P55に切られる。		
P55 26 × 26 14 A		P54を切る。		
P56 18 × 14 8 A		小西 87に切られる。		
P57 28 × 25 23 A		小西 87を切る。		
P58 26 × 25 17 A		小西 87を切る。		
P59 13 × 14 8 A		小西 87を切る。		
P60 13 × 14 14 A				
P61 19 × 17 13 A		P62を切る。		
P62 16 × 12 12 A		P61に切られる。		
P63 23 × 18 11 A				
P64 19 × 15 6 A				
P65 29 × 24 27 A	22 × 22			
P66 20 × 18 9 A				
P68 40 × 29 16 A	↑脚跡 1 点			
P69 18 × 17 20 A				
P70 32 × 29 23 A	20 × 20			
P71 27 × 20 A		SDD02に切られる。		
P72 21 × 20 11 A		小西 88に切られる。		
P73 20 × 20 14 A				
P74 13 × 12 8 A				
P75 26 × 25 21 A	21 × 20			
P76 27 × 27 20 A	14 × 14			
P77 24 × 20 9 A		小西 82を切る。		
P78 17 × 12 A		小西 82に切られる。		
P79 23 × 17 23 A				
P80 33 × 28 30 A	20 × 19	小西 82を切る。		
P81 21 × 18 14 A				
P82 31 × 25 16 A				
P83 21 × 19 23 A				
P84 71 × 65 36 A	29 × 27			
P85 18 × 14 8 A				
P86 35 × 31 13 A				
P87 28 × 46 A				

U = T 番号	規格 (cm) 寸法 × 寸法 (深さ)	掘削土 出土遺物	柱根跡 規格	調 考
P88 38 × 23 A				P89に切られる。
P89 26 × 24 13 A				P88を切る。
P90 25 × 26 13 A				
P91 26 × 20 22 A				
P92 28 × 26 14 A				
P93 24 × 23 21 A				
P94 69 × 15 A				
P95 29 × 22 15 A				SDD04に切られる。
P96 27 × 27 26 B				
P97 30 × 30 30 A				
P98 23 × 18 7 A				SDD05に切られる。
P99 31 × 21 9 A				
P100 47 × 15 A				小西 11に切られる。
P101 15 × 13 8 A				
P102 31 × 28 27 A				SDD04に切られる。
P103 19 × 17 15 A				SDD04に切られる。
P104 21 × 20 20 B				P105を切る。
P105 22 × 23 12 A				P104に切られる。
P106 26 × 23 9 A				
P107 30 × 23 11 A				
P108 25 × 23 17 A				
P109 12 × 12 18 A				
P110 18 × 16 8 A				
P111 15 × 13 8 A				
P112 21 × 18 5 A				
P113 32 × 23 24 A				
P114 42 × 33 12 A				
P115 13 × 11 8 A				小西 11を切る。
P116 21 × 19 6 A				小西 11に切られる。
P117 18 × 15 5 A				
P118 17 × 16 6 A				
P119 12 × 12 9 A				
P120 33 × 24 4 A				
P121 36 × 26 A				↑脚跡 1 点 P122に切られる。
P122 43 × 26 13 A				↑脚跡 2 点 P121を切る。
P123 18 × 14 13 A				
P124 40 × 21 A				21 × 19 小西 11に切られる。
P125 21 × 20 6 A				P126・127に切れる。
P126 33 × 8 A				P125・127を切る。
P127 23 × 20 41 A				
P128 14 × 9 3 A				
P129 28 × 23 6 A				
P130 16 × 13 9 A				
P131 15 × 99 6 A				P131に切られる。
P132 25 × 28 A				27 × 24 小西 19を切る。
P134 20 × 19 13 A				
P135 25 × 23 11 A				16 × 14
P136 23 × 20 13 A				
P137 17 × 13 6 A				
P139 25 × 24 29 A				16 × 16 P140を切る。
P140 17 × 18 A				P139に切られる。
P141 16 × 16 7 A				
P142 18 × 15 9 A				
P143 25 × 20 29 A				17 × 14 P144を切る。
P144 23 × 9 A				P143に切られる。
P145 23 × 17 A				P127に切られる。
P146 18 × 18 15 A				
P147 13 × 12 6 A				
P148 12 × 11 6 A				
P149 21 × 20 15 A				小西 13を切る。
P150 25 × 21 9 A				小西 13に切られる。
P151 26 × 22 11 A				小西 13に切られる。
P152 28 × 21 12 A				小西 13 6 切る。
P153 21 × 22 14 A				
P154 23 × 18 20 A				16 × 13
P155 18 × 16 14 A				
P156 34 × 30 10 A				
P157 16 × 13 0 A				
P158 11 × 11 12 A				
P159 12 × 11 6 A				
P160 13 × 10 7 A				
P161 21 × 20 15 A				
P162 25 × 21 9 A				
P163 26 × 22 11 A				
P164 28 × 21 12 A				
P165 24 × 22 12 A				
P166 24 × 22 13 A				
P167 15 × 15 6 A				
P168 16 × 16 13 A				
P171 30 × 28 21 A				21 × 20
P172 15 × 15 6 A				
P173 24 × 24 14 A				
P174 58 × 12 A				
P175 17 × 18 14 A				
P176 21 × 19 23 A				



出土 番号	地層 番号	出土地点				分類	法長 (cm)	判斷・調査	写真番号
		アリヤ	基本層	道耕土	道耕層				
1 A-3 B-5	SL-K-1	SR01	下層	縫合土層	深鉢			口縫合部、田畠地盤文、既耕文の発見されるが、深鉢部分のみの文様構成は不明。既耕土層部を多く含む。	43-3
2 G-1 E-1	SL-K-1	SD001	1層	1 縫合石層	深鉢	3.7	3.0	1.3 深鉢の内側に石柱状の柱を有する。縫合手は黒色を呈し、深鉢色部を含む。外縫合は縫合部の柱の上に、縫合部へと繋ぎ、縫合部層位のナガを残す。内縫合黒色を呈し、縫合部ナガ部、ナガ部を残す。	46-3
3 E-1 C-3	SL-K-1	SD002	块状層	1 深鉢層	縫			縫合部、内縫合部の柱で内縫合、縫合部白色を呈し、縫合部を含む。	46-4
4 E-2 C-3	SL-K-1	SD002	4 深鉢層	縫				縫合手層、縫合手底面に灰褐色を呈し、縫合部である。白砂粒状物、黄砂粒状物を含む。縫合手不均一である。当面は縫合の跡を呈し、内縫合部のナガが残されている。	46-6
5 G-1 E-4	SL-K-1	SR01	2 深鉢層	不明				縫合部、縫合部ナガを呈し、縫合部を呈し、白砂粒を含む。	46-8
6 E-1 C-4	SL-K-1	SK003	1層	陶器	縫			小縫合部層 (1層目)、既耕部縫合部の縫合部層、縫合部既耕部に立ち上がる。地土は既耕色を呈し、縫合部である。内・外ともオリーブ色の痕跡が残る。ナガを呈する。一次縫合を受けている。表面には既耕土層部を含む。	46-9
7 E-2 D-3	SL-K-1	SD004	1 縫合	縫				16.0cm×17.7cmの板状、小縫合部層部、既耕部の縫合部である。表面には既耕土層部を含む。縫合部ナガを呈する。ナガを呈する。表面は黒色を呈する。	46-10
8 E-2 B-5	SL-K-1	SR01	上層	陶器	縫			12.0cm、深鉢層、既耕部縫合部の縫合部、縫合部既耕部に立てる。既耕部を呈し、既耕部ナガがみられる。縫合部ナガを呈する。	46-11
9 E-3 D-3	SL-K-1	SD004		石製品	縫石	(7.0)	6.1	3.3 既耕部はナガナガをしてする。既耕部既耕部、縫合部既耕部を呈する。	46-12
10 E-2 C-4	SL-K-1	SD002	2層	15 金銀製品	縫貝	192.5	2.2	1.6 縫合部を呈する。右縫合縫合部である。縫合部縫合部、下縫合を失敗する。	46-13
						8.00±0.5		北支の刺繍「元豊通宝」(行費員)。切替は元豐元年(1078)である。	46-14

第16図 III層上面検出遺構出土遺物

## 6 IV層発見遺構

### 1) 炭化物集中部

**【位置・重複】** 調査区の北西側、C3グリッドから検出された。SD02に南側を切られる。III層上面の調査中にSD02の北壁断面に帯状に広がる炭化物の分布が確認された。このため周囲を精査したが、遺構のプランは検出されなかった。III層の調査完了後、III層中位、IV層上面でプランの確認を行ったが、遺構としての掘り込みは確認されなかった。

**【平面形・規模・厚さ】** 平面分布は不整形を成し広がる。周辺部は範囲とした外側にも径5~10cmの分布が点在する。南側はSD02に切られており不明である。規模は南北2.70m、東西3.00mを測る。中央部は炭化物が約20%の密度で集中して分布する。規模は南北1.50m、東西1.60mを測る。集中部の厚さは15cmを測る。

**【堆積土・出土遺物】** 遺物は出土しなかった。



第17図 IV層炭化物集中部

## 7 VI層上面発見遺構と出土遺物

土坑4基、不明遺構1基、ピット30基が検出された。

### 1) 土坑

#### SK06 土坑

【位置・重複】 調査区の西側、C5グリッドから検出された。JP24を切る。

【平面形・大きさ】 平面形は橢円形を呈する。長径113cm、短径75cmを測る。底面は平坦で、長径102cm、短径80cmを測る。

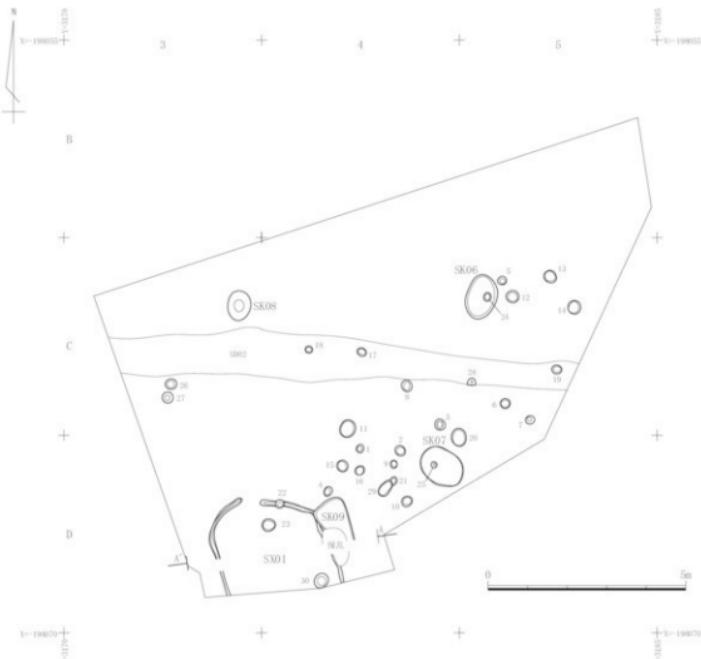
【深さ・断面形】 深さ10cmを測る。断面形は船底形を呈する。

【堆積土・出土遺物】 堆積土は2層に分けられる。1層の黒褐色を呈し植物遺体を含むシルトを主体とする。2層は壁の崩落土である。遺物は出土しなかった。

#### SK07 土坑

【位置・重複】 調査区の南東側、D4・D5グリッドから検出された。P25を切る。

【平面形・大きさ】 平面形は橢円形を呈する。長径119cm、短径85cmを測る。底面は平坦で、長径115cm、短径85cmを測る。



第118図 VI層上面検出遺構

【深さ・断面形】 深さは8cmを測る。断面形は船底形を呈する。

【堆積土・出土遺物】 堆積土は3層に分けられる。黒褐色を呈し灰白色粘土を含むシルトを主体とする。遺物は出土しなかった。

#### SK08 土坑

【位置・重複】 調査区の北西側C3グリッドに位置する。

【平面形・大きさ】 平面形は梢円形を呈する。長径75cm、短径58cmを測る。底面は長径30cm、短径25cmを測る。

【深さ・断面形】 深さ25cmを測る。断面はすり鉢状を呈し底面は丸みを帯びる。

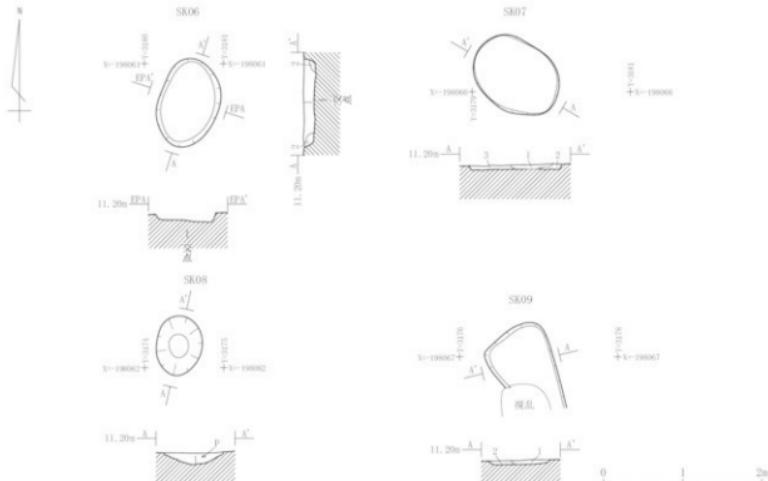
【堆積土・出土遺物】 堆積土は炭化物、黒褐色を呈するシルトで灰白色粘土を含む。圓文土器8点が出土した。すべて同一個体である。A-1（第21図1）は深鉢の胴部下半から底部である。底面に網代痕がみられる。土坑内出土のほかC3グリッドのV層から出土した破片と接合した。

#### SK09 土坑

【位置・重複】 調査区の南側、D4グリッドから検出された。SX01を切る。

【平面形・大きさ】 南側が木痕による擾乱を被り、平面形は不明である。

【深さ・断面形】 深さ8cmを測る。断面形は舟底形を呈する。



遺構	土質No.	土色	土質	備考		
				1	2	3
SK06	1	2.5Y 3/1 黒褐色	シルト	炭化した植物遺体をやや多く含み、灰白色粘土、浅黄色砂をブロック状に少量、雲母粒子をわずかに含む。		
	2	2.5Y 7/4 浅黄色	砂	砂混入。		
SK07	1	2.5Y 3/1 黒褐色	シルト	炭化した植物遺体をやや多く含み、灰白色粘土、浅黄色砂をブロック状に含む。		
	2	2.5Y 7/4 浅黄色	砂	砂混入。		
	3	2.5Y 3/1 黒褐色	粘土	灰白色粘土をブロック状に少額、浅黄色砂をブロック状にやや多く含む。		
SK08	1	2.5Y 3/1 黒褐色	シルト	炭化物を含む、灰白色粘土、浅黄色砂をブロック状に少量含む。		
	1	2.5Y 3/1 黒褐色	シルト	灰白色粘土、浅黄色砂をブロック状に少量、雲母粒子をわずかに含む。		
SK09	2	2.5Y 3/1 黒褐色	シルト	炭化物を少額、灰白色粘土をブロック状に少量、浅黄色砂をブロック状にやや多く含み、雲母粒子をわずかに含む。		

第19図 VI層上面検出土坑

**【堆積土・出土遺物】** 堆積土は黒褐色を呈するシルトを主体としており、灰白色粘土を含む。縄文土器3点が出土した。A-2 (第21図2) は深鉢の胴部下半から底部である。胴部に撲系文 (L) が施文される。土坑内から出土したのは胴部破片の一部であるが、C4・C5・D3・D4・D5グリッドのV層から出土した6点の破片と接合し、胴部下半と底部の1/3が復元された。

## 2) ピット

30基検出された。大部分が調査区の南側のD4グリッド、東側C4グリッドに分布している。遺物は7基のピットから9点の縄文土器が出土しているが、小破片であるため図示していない。堆積土は以下の3種に大別して一覧表に記号で記した。

C 2.5Y3/1黒褐色 シルト 炭化物を少量、ブロック状の明褐色砂を少量含む。

D 2.5Y7/1黄灰色 砂質シルト マンガン粒を少量含む。

E 2.5Y3/3灰オリーブ 粘土 ブロック状の黄灰色砂を少量含む。

ピット 番号	範囲 (m)	地盤と 透視	出土遺物	目視解 析結果	備 考
JP1	21 × 19 10	C	縄文土器1点		
JP2	27 × 25 8	C	縄文土器1点		
JP3	29 × 26 16	C	縄文土器1点		
JP4	25 × 20 19	C	縄文土器1点		
JP5	22 × 22 11	C	縄文土器1点		
JP6	26 × 25 6	C			
JP7	23 × 22 16	C			
JP8	30 × 26 13	C			
JP9	20 × 17 8	C			
JP10	28 × 26 13	C			
JP11	44 × 28 15	C			
JP12	33 × 31 9	C			
JP13	34 × 30 7	C			
JP14	34 × 33 6	C	縄文土器1点		
JP15	29 × 29 11	C			

ピット 番号	範囲 (m)	地盤と 透視	出土遺物	目視解 析結果	備 考
JP16	25 × 22 11	C			
JP17	24 × 21 13	C	縄文土器3点		
JP18	19 × 18 7	C			
JP19	25 × 23 17	C			
JP20	46 × 38 9	C			
JP21	20 × 10	C			
JP22	22 × 21 12	C			SK01 上の新旧不明。
JP23	34 × 32 8	C			SK01 上の新旧不明。
JP24	22 × 19 5	C			SK06 に切られる。
JP25	16 × 15 10	C			SK07 に切られる。
JP26	29 × 27 5	C			
JP27	28 × 28 7	C			
JP28	21 × 19 D	D			
JP29	44 × 27 6	E			
JP30	39 × 33 19	C			SK01 上の新旧不明。

## 3) 不明遺構

### S X 1

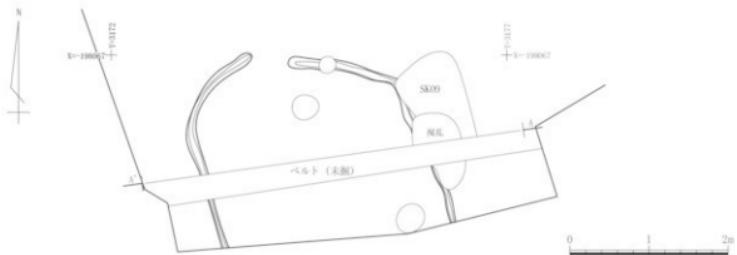
**【位置・重複】** 調査区の南西側、D3・4グリッドから検出された。南側は調査区域外に延びる。SK09に切られる。JP22・23・30との新旧関係は不明である。

**【平面形・規模】** 壁周溝状を呈する溝が巡るもので北側は梢円形を呈する。東西280cmを測る。

**【深さ・断面形】** 溝の深さは8cmを測る。断面形はU字形を呈する。

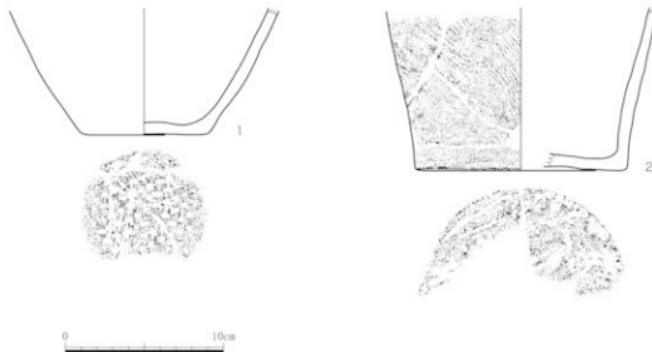
**【堆積土・出土遺物】** 堆積土は黒褐色を呈するシルトを主体とする。単層である。遺物は出土しなかった。

**【性格】** 本遺構は風倒木痕など自然營力の所産である可能性も考えられる。



埋積土	土色	土質	参考
	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	

第20図 VI層上面検出不明遺構

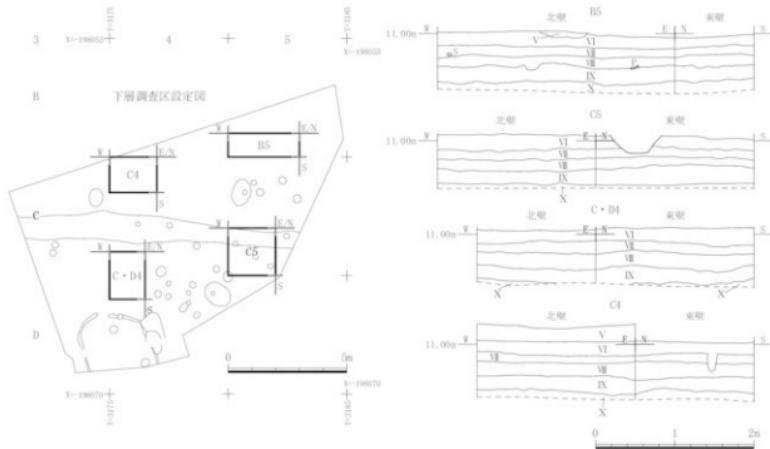


回次 番号	地層 番号	出土地点			分類		法貫 (m)		形態、参考	写真図版	
		アリ x フ	基本層	遺構名	遺構番	取上位置	埋置	高さ	口径		
1	A-1	C3		SK08	2層	遺文土器	深鉢	(0.0)	7.9	(湖貝・董貝・貝村・鹿角・筒形)	
2	A-2	D4		SK09	1層	遺文土器	深鉢	(0.0-2)	13.3	根付と側面下端、表面に斜め凹（1本端丸、1本端丸、2本端丸）。胎土は砂粒を多量に含む。	45-1
										根付と側面下端の凹凸、根付突（L）、胎土は砂粒を多量に含む。	45-2

第21図 VI層上面検出遺構出土遺物

## 8 下層調査

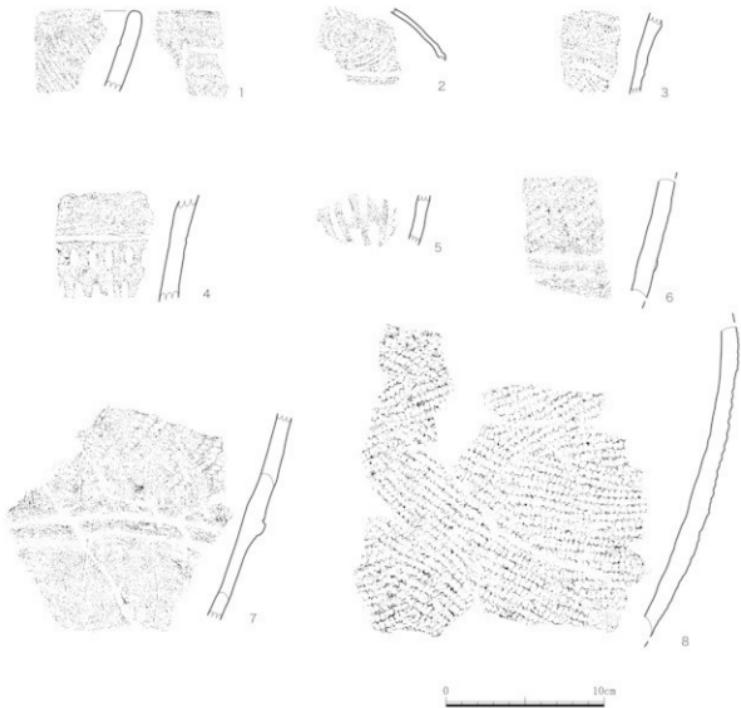
下ノ内遺跡では第1次から7次の調査で縄文時代中期末葉の遺構が検出されている。第8次調査でもVI層以下の遺構を確認するため4箇所の下層調査区を設けた。面積は13m<sup>2</sup>である。C4、C・D4、B5調査区はVI層上面の遺構が確認されない部分に設定し、IV層上面の遺構調査と並行して調査した。C5調査区はピットの調査が完了した後に掘削した。掘削は人力で行いX層まで掘り下げた。調査の結果、VII・VIII・IX層から縄文土器が検出された。X層上面を確認面として精査したが、明確な遺構は検出されなかった。縄文土器はVII層から12点、VIII層から15点、IX層から69点が出土した。うち8点を図示した。A-18（第23図1）は撚糸が施される。縄文時代後期初頭の所産である。A-16（第23図2）は注口土器の口縁部下である。A-21（第23図4）とA-19（第23図5）は雨だれ状の刺突が施される。A-17（第23図6）、A-20（第23図7）は胸部に単節縄文が施され、下端を陰帯で区画する。A-22（第23図8）はLR単節縄文が施される。



第22図 下層調査区

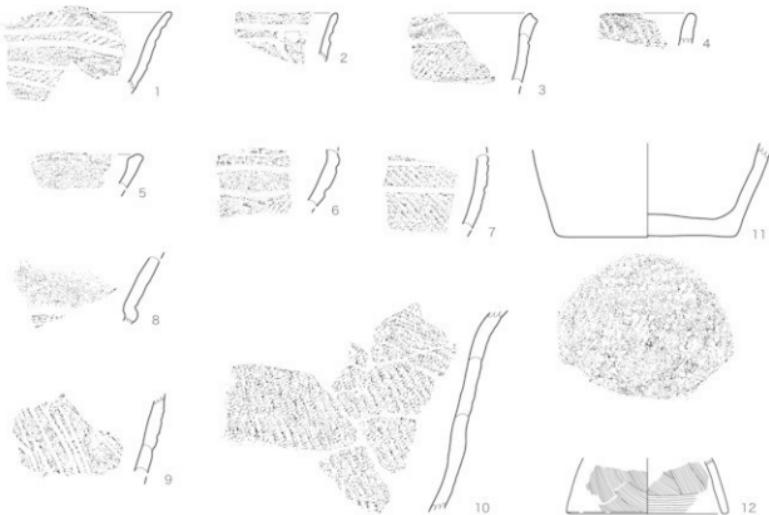
## 9 遺構外出土遺物

遺物はI層から縄文土器1点、土師器9点、陶磁器4点、II層から縄文土器3点、土師器10点、V層から縄文土器118点、VI層から縄文土器13点が出土した。VI層の土器は遺構確認中に出土したものである。縄文土器11点、土師器1点、陶磁器3点を登録した。1~11は縄文土器である。A-5・8（第24図1）は浅鉢の口縁部である。横位の沈線文と肩消縄文が施されている。A-15（第24図11）はV層から出土した底部破片が下層調査VI・IX層から出土した破片と接合している。陶磁器は図示していない。I-3（写真46-13）は古瀬戸の陶器平碗である。削り出し高台から、古瀬戸後期後半、15世紀前葉の所産であると考える。J-3（写真46-12）は肥前の磁器皿類の胸部破片である。染付により草文が描かれる。近世の所産である。登録外の遺物としてこのほかに18世紀末～19世紀中葉の大堀相馬の端反腕破片、19世紀の所産と思われる堤焼の陶器壺胴部破片、19世紀前～中葉の瀬戸・美濃の磁器方形小皿の破片、17～18世紀の岸窯系の陶器壺胴部破片などが出土している。



調査 番号	地層 番号	出土地点				分類	法長 (cm)	判別 基準	判別 参考 (測量、重量、素材、用途、時期)	写真回数
		アリヤド	基本層	過渡層	後期層					
1	A-18	B-5	DX層	深層区		縹文七層	深88		口縫跡破片。外側は縦木文を斜角に施文。内側に繩文へ向かう状工具による浅縫。筋目に平行な山羽を含む。	45-4
2	A-16	C-5	V層	深層区		縹文七層	浅100		口縫跡破片。平行波線文と垂直集合波線文で文様を構成する。表面は黒色が漂きれる。	45-5
3	A-23	C-4	X層	深層区		縹文七層	深88		深溝の上縫跡の下縫跡。口縫跡は無文層。側面にLR单筋縫文を施文する。無文層と縹文層を複数帶上縫跡で区画する。	45-6
4	A-21	B-5	DX層	深層区		縹文七層	深88		縫跡破片。縫跡は無文。而だらけの斜文が並列する。無文層との間を浅縫で区画する。	45-7
5	A-19	C-4	X層	深層区		縹文七層	深88		棒状工具の擦痕跡を用いて逆だらけの斜文を施文する。	45-8
6	A-17	B-5	V層	深層区		縹文七層	深88		斜工具の擦痕跡を用いて逆だらけの斜文を施文する。無文層と施文層の間を縫跡で区画する。筋土は並行土合む。	45-9
7	A-20	C-D-4	DX層	深層区		縹文七層	深88		筋土なし。側面はLR单筋縫文を施文する。無文層と施文層を縫跡で区画する。	45-10
8	A-22	B-5	DX層	深層区		縹文七層	深88		縫跡破片。LR单筋縫文	45-11

第23図 下層調査区出土遺物



0 10cm

図中 番号	地層 番号	出土地点			分類			法量 (cm)			形態・諸考	写真番号
		グリッド	基本層	遺構名	遺構層	段上 (%)	規則	面積	最高・低 (1)径・幅 厚さ	規則		
1	A-9- 9	D4	V層		縫文土器	深88					U字形縫合口。縫合部下に斜面。単斜縫文を複斜面に平行な縫文を施す。側面縫文 を施す。文様は横波文字。	46-12
2	A-6	C5	U層		縫文土器	深94					U字形縫合口。縫合部下に平行な縫文と円錐網目文。	46-13
3	A-9	C5	U層		縫文土器	深94					U字形縫合口。U字形縫文と洗浄文で文様を構成する。	46-14
4	A-10	C5	U層		縫文土器	深94					U字形縫合口。L字形縫文。	46-15
5	A-11	C5	U層		縫文土器	深94					斜面のU字形縫合口。U字形縫文。	46-16
6	A-14	C5	U層		縫文土器	深99					斜面のU字形縫合口。U字形縫文で文様を構成する。	46-17
7	A-13	C5	U層		縫文土器	深99					斜面のU字形縫合口。U字形縫文で文様を構成する。	46-18
8	A-12	C5	U層		縫文土器	深99					斜面のU字形縫合口。U字形縫文で文様を構成する。	46-19
9	A-7	C	U層		縫文土器	深99					U字形縫合口。平行な縫文で文様を構成する。	46-20
10	A-4	C-1-D 4-5	V層		縫文土器	深88					斜面のU字形縫合口。U字形縫文。	46-1
11	A-15	C5(B5)	V-VI U層		縫文土器	深88	(0.5)	11.1			直角底。U字形縫合口。U字形縫文。	46-2
12	C-2	D5	I層		土器底	高所	(0.5)	30.2			斜面底。U字形縫合口。U字形縫文。	46-5
なし	13	-	II層		陶器	平底					U字形縫合口。古朴な縫合口。縫合部下側の側面を呈し、直角。白色系を呈す。側面 は斜面状である。内面は斜面状である。	46-13
なし	14	-	II層		陶器	扇子					側面のU字形縫合口。側面が斜面状である。側面は斜面状である。	46-14
なし	15	-	II層		陶器	底					側面のU字形縫合口。側面が斜面状である。	46-15

第24図 遺構出土物遺物

## 10. まとめ

### (1) III層上面

検出された遺構は掘立柱建物跡1棟、土坑5基、溝跡5条、小溝状遺構21条、ピット175基、河川跡1条である。既往の調査区と比較して第8次調査区はII層の残存状態が悪く層厚が薄いため、II層上面の調査を行わず、III層上面で遺構の確認を行った。遺構は調査区壁面の基本層序からII層上面から掘り込まれると判明しているものがある。遺物は土師器、須恵器、陶磁器、石製品、金属製品が出土した。このことから検出された遺構には古代から中近世にわたる時期幅があると考えられる。

溝跡の時期と性格について、出土遺物を含めて検討したい。SD01はSK01～03に切られSD03を切る。時期の判断できる遺物を伴わない。SD01の北側と南側ではIII層遺構分布の疎密があきらかに異なっており、生活域と河縁を区画していた可能性が指摘される。SD02は確認面から18世紀の陶器、1・2層から土師器、須恵器、14世紀から16世紀の磁器、北宋銭（初鋤1078年）が出土している。3層以下から中世以後の遺物は検出されていないことから中世のうちに埋没が進んだものと思われる。SD02は既往の調査において検出された溝と連続すると考えられ、併せて出土遺物の検討を要するものであるが、第8次調査の状況からみると中世の所産であると考えられる。SD03は遺物を伴わない。SK04、SD01・SD02・SD04に切られ、本遺跡の溝のなかで最も早く埋没している。SD04は近世の磁器が出土している。切り合い関係からみても新しく、近世以降に埋没したものと思われる。SD05は時期の判断できる遺物を伴わない。切り合い関係からみるとSD02に切られており、中世の所産である可能性が考えられる。第8次調査から検出された溝跡は新旧関係を有するが、位置関係は平行、直交している。中世から近世にかけての継続的な土地利用に伴うものであると考えられる。

### (2) VI層以下

検出された遺構は土坑4基、ピット30基、不明遺構1基である。このうちSK08からA-1、SK09からA-2が出土している。SK08・09は繩文時代後期の所産であると考えられる。

遺物は基本層V～VII・VIII・IX層から繩文土器が出土した。全て破片資料であり、全体を観察できるような大形の破片もみられない事から、詳細は不明であるが、上位から後期前葉～中葉の南境式～宝ヶ峰式併行のものが出土し、下位から中期後葉～末葉の大木9式～10式のものが出土する傾向がみられる。遺構、遺物のあり方から当該期の集落の主体は本調査区の南東側に広がっているものと考えられる。

## 引用参考文献

- 仙台市教育委員会 1983 『仙台市文化財分布図』
- 仙台市教育委員会 1995 『下ノ内浦遺跡 第5次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第202集
- 仙台市教育委員会 1998 『南小泉遺跡 第30・31次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第226集
- 仙台市教育委員会 1999 『富沢遺跡 第104次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第235集
- 仙台市教育委員会 2003 『IV 下ノ内遺跡発掘調査報告書』『国分寺東遺跡他発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第266集

# 写 真 図 版





写真1 Ⅲ層上面遺構完掘状況（西より）



写真2 Ⅲ層上面遺構検出状況（西より）

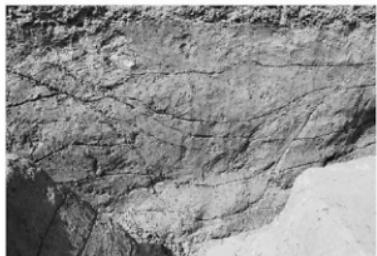


写真3 調査区西壁基本土層およびSD02土層断面（東より）



写真4 調査区南西壁基本土層（北より）



写真5 調査区東壁基本土層およびSR01土層断面（西より）



写真6 SB01掘立柱建物跡（北西より）



写真7 SB01P21柱痕跡土層断面（東より）

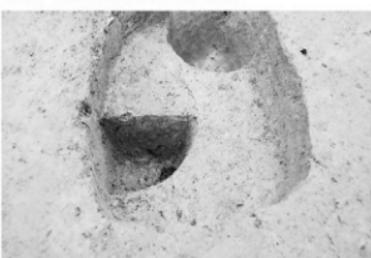


写真8 SB01P39柱痕跡土層断面（北東より）

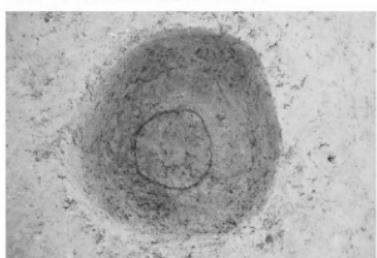


写真9 SB01P67柱痕跡（南より）

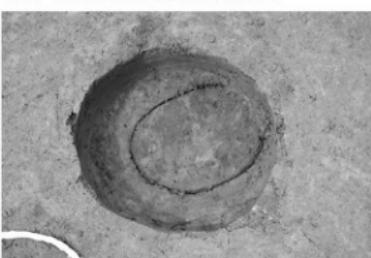


写真10 SB01P138柱痕跡（南より）

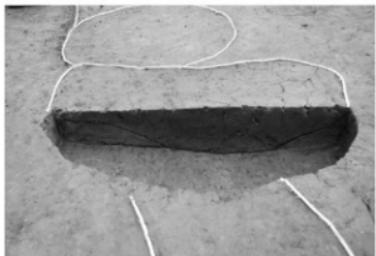


写真11 SK01土層断面（西より）

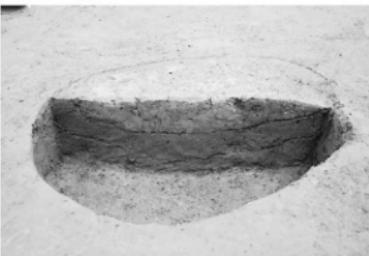


写真12 SK02土層断面（西より）

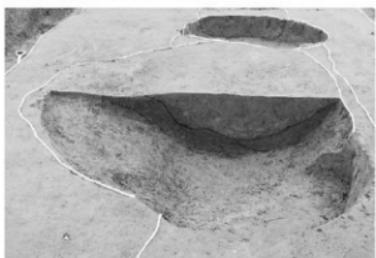


写真13 SK03土層断面（東より）



写真14 SK01~03（東より）



写真15 SK04（北より）

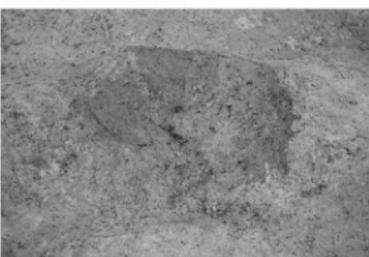


写真16 SK05炭化物出土状況（東より）



写真17 SD01土層断面A-A'（西より）



写真18 SD02土層断面C-C'（西より）



写真19 SD01・02全景（東より）



写真20 SD03全景（北東より）



写真21 SD03土層断面C-C'（南より）



写真22 SD04・05全景（南より）



写真23 SD05土層断面A-A'（南より）



写真24 小溝状遺構群A全景（西より）



写真25 小溝状遺構07土層断面（南東より）



写真26 小溝状遺構群B 19・20（南より）



写真27 小溝状遺構群B 17・18（南より）



写真28 SRO1全景（東より）



写真29 SRO1土層断面（南西より）



写真30 IV層炭化物集中部（南より）



写真31 VI層上面遺構完掘状況（東より）



写真32 VI層上面遺構検出状況（北より）

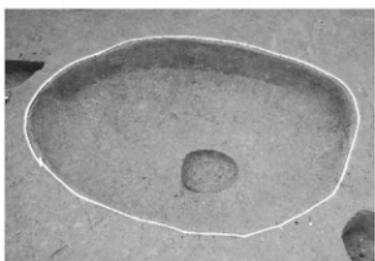


写真33 SK06（東より）



写真34 SK06土層断面（東より）

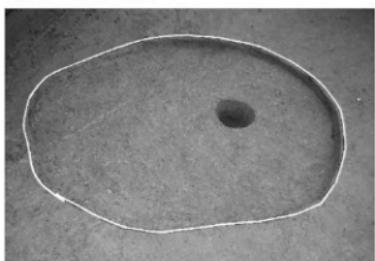


写真35 SK07（北東より）



写真36 SK07土層断面（北東より）

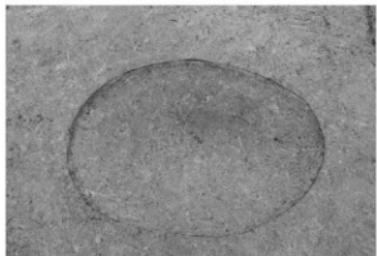


写真37 SK08（西より）



写真38 SK08土層断面（西より）



写真39 SK09（北より）



写真40 下層調査区（北より）



写真41 B5グリッド下層調査区北壁土層断面（南より）

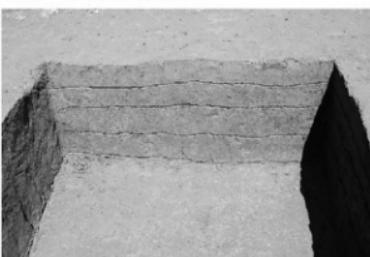


写真42 C・D4グリッド下層調査区北壁土層断面（南より）

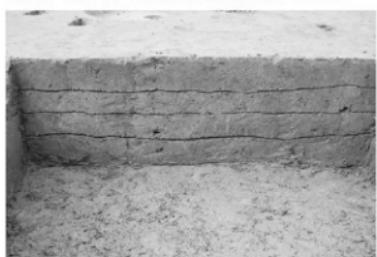


写真43 C5下層調査区北壁土層断面（南より）



写真44 作業風景



写真45 出土遺物 I

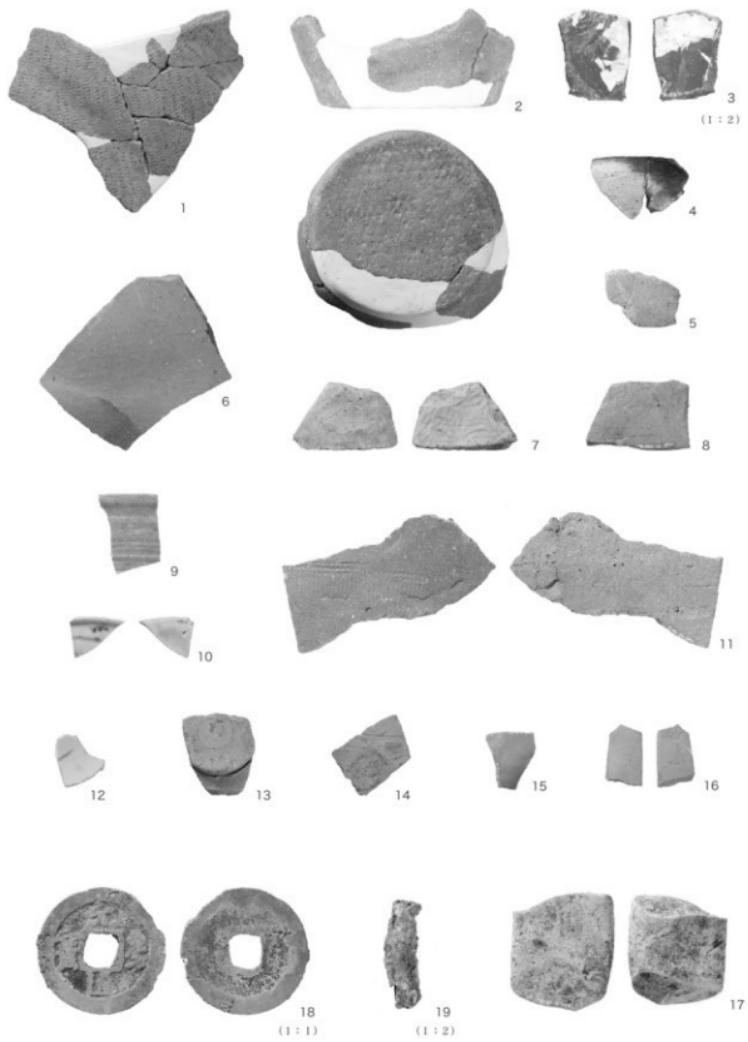


写真46 出土遺物2



## 報告書抄録

ふりがな	しものうちいせき							
書名	下ノ内遺跡							
調査名	第8次発掘調査報告書							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第320集							
編著者名	主瀬光朗 森田信博							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7-1 電話022-214-8894							
発行年月日	2008年3月12日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
下ノ内遺跡	仙台市太白区 富沢四丁目 12-3、30-3	04100	01425	38° 12' 56"	140° 52' 10"	2007.07.1 ? 2007.09.21	166.26m <sup>2</sup>	集合住宅 建設に伴う 事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項
下ノ内遺跡	集落 煙跡	縄文時代	土坑 ピット			縄文土器（中期・後期） 石器		
		古代	掘立柱建物跡 土坑、溝跡 小溝状遺構群			土師器・須恵器 陶磁器 土師質土器、 石製品		
		中近世	河川跡 ピット			石製品 金属製品		

仙台市文化財調査報告書第320集  
**下ノ内遺跡**  
 第8次発掘調査報告書  
 2008年3月

発行 仙台市教育委員会  
 仙台市青葉区国分町三丁目7-1  
 文化財課 022(214)8894  
 印刷 文明堂印刷  
 東京都北区中十条二丁目14-12  
 03(3908)3466

